

菌類観察会&スライド会に参加して

会長 金城 典子

昨年の夏は異常気象により、各地で観測以来の暑さであったとの報道がありました。「猛暑」や「酷暑」は身近な言葉となり、また暴風雨で大型トラックの横転や想定外の浸水被害等もありました。これらは地球の温暖化が一因と言われています。蝶マニアの友人から、奄美群島で見かけていたアカボシゴマダラ *Hestina assimilis* が山梨県内で観察されるようになったとの便りがありましたが、「これまで出会うことがなかったきのこや冬虫夏草に会えるかもしれない。」そんな気持ちで野山を歩いています。

皆様におかれましてはお変わりなくお過ごしでございましょうか。



写真は2015年9月20日(第3日曜日)、泉自然公園の観察会での同定会(於:千葉市白井公民館)の様子です。絵になるほど美しいきのこも、幼菌や老菌、そして発生する環境等で大きさや形そして色等、微妙に異なり

ます。

午前中に採集したきのこは、吹春俊光先生から説明をいただくのですが、きのこの見分け方と最新情報を盛り込んだ解説はとても人気があり、千葉菌類談話会のベテラン会員、学生そして微笑ましい家族連れの姿、さらに、この説明を目当てに参加される方も見られます。そして「これは毒キノコ?それとも食べられるキノコ?」不安を解消したいために熱心に取り組んでいる方もおり、和やかであり、活気があります。きのこを正しく知るための近道なので、次世代を担う若い方や子供達の参加は大歓迎です。お孫さんとともに参加されてはいかがでしょうか。

本年度も3回の観察会が行われた後、スライド会が1月9日(土曜日)、千葉県立中央博物館講堂&研修室で行われました。須賀良行氏の2015年きのこ目録80種の生態写真から始まり、萩本宏氏は可愛い松かさ上きこの発生を試みたり、パワーポイントの発表をより進化させて発表した浅井淑子さんは輝いていました。また、中島敦志氏のFriesやSaccardoが分類の指標とした胞子の色や形をはじめとしたきのこを見分ける時の形質を科学的根拠下で行うことを目的とした価値の定量化は、きのこの初学者にお勧めということで、自宅のパソコンを開いて活用できます。そして、小倉豊史氏の『キノコの胞子は気流によって飛ぶのか?』や、中田真也子

さん家族で取り組む『きのこ観察&超望遠コンデジ(コンパクトデジタルカメラ)』は、次回にはどのような発表となるのかと思いました。個々の創意工夫された発表は上手に編成され、すっかり浸り、聞き入っていました。さらに最後の演題、三休さんの『KINOKO WARS』は幻想的な光るきのこことリズム感のある音楽のコラボレーションが素晴らしく、もう一度聴きたいという気持ちでした。2週間

余経た今でも、すずらんの皆様が指揮者の近田節子さんと一体となって演奏されたハンドベルの音色、そして三休さんの『KINOKO WARS』は脳裏に刻み込まれています。今回はどのようなバージョンを聞かせていただけるのかととても楽しみにしています。

皆様の健康と益々のご活躍を心から祈念しております。□

キクバナイグチは3種に分けられた!

2009年8月16日、会員の石毛久雄さんと中川憲さんが笠森(長生郡長南町)できのこをたくさん採集して中央博に持ち込まれた。そのなかに、夏のシイ・カシ林に発生するキクバナイグチが大量に入っていた。本種は2種類あることが知られていたもので、偶然居合わせたわたしは、鱗片の細かいものと大きなものに分けていった(写真1)。なんとという贅沢。一同にたくさん見ることができると、違いがよくわかり、とても勉強になる。分け終えて、鱗片の大きなものの山をながめると、



写真1

どうも顔つきが違うものが混じっている。個体差なのか? 半信半疑ではあったが、さらに分けられるような気がして、直感に従って分けてみた。そして、A、B、Cと3つ(写真2)に分けたまま、ちょうど研究で本種を集められておられた、京都大学の佐藤博俊さんにお送りした。2015年夏、キクバナイグチは3種に分けられたという報告がでたことを聞いた。しかも、なんとあの日分けたとおりに、DNAで分けられたということであった。目視での分別もまんざらではないとわかり、とても嬉しい。以下は佐藤さんの論文URLです。皆さまぜひご覧ください。(吹春公子)

<http://journals.plos.org/plosone/article?id=10.1371/journal.pone.0128184>



写真2 左より、A(CBM-FB-37683)、B(CBM-FB-37684)、C(CBM-FB-37685)、()は中央博物館の資料登録番号